

印象新聞



第5号

読者と共に

紙面へのご意見
は問合せは

info@inzou.com

エコール・ド・パリの代表画家

藤田嗣治を舞台化!!

「乳白色の裸婦像」で1920年代のパリを魅了した画家
藤田嗣治。その生涯を劇団印象が舞台化する。

多様性の象徴のようなパリの画壇で日本人画家として目取を名を
成した藤田。彼は栄光の裏で何に葛藤し、どのような野心を抱いたのか。

日本型リズムに同調し戦争画を描くに
至った心境。アツ島玉砕に込められた
想いとほろろ表現者の倫理を問う。

劇団印象による「国家と芸術家シリーズ」
第一部「藤田嗣治と白い暗闇」レオナルド・フジタ
の心の闇に迫り、下北沢の舞台を乳白色に染める
「評伝劇」を乞うご期待!!

2021年10月27日〜11月2日
会場 下北沢小劇場 B1



先生フジタ



子ゾウのポボンとお月さま

☆子ゾウが歌い、踊る、☆
☆遊ぶのジャングル☆
～2021年の活動～
2021.3.25 第20回アミテジ世界大会
@長野県茅野市民館
マルチホールE
2021.3.26 NPO法人子ども劇場 場せたがや
@北沢タウンホール
☆☆☆☆ 27の会場で
おこぼれキャラのさう
舞台に!!!
演者おぼろけ
体となって楽しい
時間になりました!
☆☆☆☆ 人間の女の子を
好きになった子ゾウの
甘く切ない物語
☆☆☆☆ ポボンを上演しませんか?/
公演時間: 45分
理想的観客数: 150名
対象年齢: 4歳~小4
お問い合わせは2555↓
☑: info@inzou.com

藤田嗣治「白い暗闇」では、藤田の27歳〜59歳の姿が描かれる。
ここでは、本編で描かれなかった彼の学生時代に注目して、その人物像を
探ってみようと思う。
一九〇五年、美術学校の西洋画科に入学した嗣治。しかし、黒を嫌った印
象派の異郷者を強く受けた当時の教授は、黒や影を多用する学生時
代の嗣治の画風を評価しなかった。また、日本画科の教室に入りました際
には、「君の日本画は洋画臭い」と評される。後に嗣治は、「日本画と西洋
画とが区別して日本人の描く絵を取り扱う事がすでに疑問であり、
私は私の絵を単に藤田の絵と称している」と語っている。きわめて明治
色の強い権威主義や規律といったものに抑圧された学生時代の嗣治。
その経験が髪型や服装から毛いじめられる彼の圧倒的な「フジタ」とい
う個性を爆発させたのではないだろうか。不遇の学生時代を送った嗣治が
パリに移ってどう変わっていくのか。是非本編を観て楽しんでほしい。

日本画と西洋画の狭間
フジタというオリジナリティ
東京美術学校時代の嗣治?

器用で、服をはじめ、布製の装飾品や染織物のほとんどを手作りしていたフジタ。

